

CASE STUDY

# 「食物アレルギーの子どもを守る」大学へ〈私立大学研究ブランディング事業〉

## 愛知文教女子短期大学

### 地元で存続する 女子短大としての覚悟

本学は名古屋市の西北部に位置する稲沢市に、家政科を中心とする女子短期大学として設立されました。以来、約70年にわたって社会に貢献できる自立した女性の育成に力を注いでいます。

2年前、本学の食物アレルギー研究が、「私立大学研究ブランディング事業」（以下、ブランディング事業）に選定されました。これは、「稲沢の地で、女子短大としてこれからも存続していく」と覚悟を決めた本学にとって、これまでの取り組みを棚卸しし、次のビジョンを描くよい機会となりました。

本学の改革がスタートしたのは、私が学長に就任した約10年前です。当時は帰属収支が大幅な支

出超過となっており、学生募集の強化をはじめとする大学全体の改革が急務でした。そこでまず、全学が一枚岩になることが重要だと考え、「教員がみんな取り組む、共通の研究テーマ」を設け、研究によって大学全体がまとまることをめざしました。

食物アレルギーについては、15年ほど前に社会問題となったときから、本学では向き合い続けてきました。栄養士養成の中で食物アレルギーに関する特別実習プログラムを設け、食物アレルギーのある地域の子どもと家族の方にクリスマス料理を提供するパーティーを開催してきました。親子が一緒に安心して同じ料理を楽しんでいる姿からは、毎年たくさんのドラマが生まれています。こうした本学での研究を生かした地域との継続的な交流は、地域における本学

の存在感を高めるとともに、組織の一体感も高めていきました。

### これまでの改革を 次の世代につなぐ

さまざまな改革の効果もあり、今では学生募集面での問題は解消され、帰属収支もプラスに転じています。そうした状況にあった本学がブランディング事業に応募した理由は、食物アレルギーでの取り組みが生かせる事業だと直感したことと、「これからの本学の未来を担う次世代への投資」としてこの事業を活用できるのではないかと考えたことにあります。と言うのも、本学が存続し、発展し続けるためには、改革してきたことを次世代につなぐことが欠かせないからです。幼児教育学科で食物アレルギーを学び、保育の現場で

他職種と連携して子どもを守ることは、食と保育の学科を擁する本学にとって、この稲沢の地での存在価値なのです。

ブランディング事業に選定されたことで得た補助金は、研究や広報の充実、ブランドビジョンの策定などに活用し、それぞれの取り組みを強化しています。ブランドビジョンの策定では、若手教職員がタスクチームが中心となって全教職員が参加する分科会を開催し、そこで出た意見を吸い上げ、検討を重ねました。その結果、「ひとを想う挑戦」というビジョンを定めています。

本学の教育・研究領域は、女性の生き方と深い関わりがあります。これからの教育・研究の質を高め、女性の人生を豊かにすることに挑戦し続けていきたいと思えます。



学長 古山敬子

こやまけいこ ●2001年愛知文教女子短期大学助教授。2004年同短期大学教授・副学長。2007年同短期大学学長。2018年愛知文教女子短期大学附属第一幼稚園園長(兼任)。

取材・文／本間学 撮影／加納将人

## 補助金カルテ

私立大学研究ブランディング事業(タイプA)	申請の狙い	▶建学の精神に基づく「協働する心を育てる教育」と、10年以上にわたり取り組んできた「食物アレルギー対応」に関する教育・研究・社会貢献をもとに、学科間・教職員間の連携、外部からの評価、学内外への周知を強化し、自学を代表する研究ブランドの確立、大学広報につなげる
	成果指標	▶自学の研究力・教育力を発信することによる目的意識の高い入学者の増加 ▶在学生の食物アレルギー教育成果 ▶卒業生に対する企業や保育園・幼稚園からの評価 ▶食物アレルギー情報サイト「はっぴーと」の視聴状況
	体制・スケジュール	▶中長期計画の一環として、学科を越えた若手教員からなる「研究ブランディングプロジェクトチーム」を発足。申請内容等を検討し、5か月間かけて申請書を作成 ▶事業の方針、研究支援体制の整備は、学長、副学長、学科長、法人部長等からなる「ブランディング事業委員会」が行う ▶稲沢市、保育所給食有識者、医師、学校給食有識者からなる外部評価委員会を設ける
	レバレッジポイント	▶自学の研究の核を学内外に表明したことで、学内で自学の強みをより共有でき、教職員が一丸となって100周年に向かう新たなブランドビジョンを策定できた ▶獲得した補助金を研究調査費、教員の研修費、研究成果を発信するための施設設備費等に充て、研究力の強化を推進
2017年度に交付を受けた主な補助金		▶私立大学研究ブランディング事業(タイプA:社会展開型) ▶成長分野における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業(職域プロジェクトA:「地域版学び直し教育プログラム」の開発・実証) ▶私立大学等改革総合支援事業タイプ2「地域発展」

愛知文教女子短期大学 ▶愛知県稲沢市 ▶1951年稲沢女子短期大学として創立  
▶教育理念は「正・明・和・信」▶学科/幼児教育(第1部、第3部)、生活文化  
▶学生数/約560人▶教員数/36人(専任)▶職員数/22人(専任)

## 注目! 食物アレルギーの研究をさらに深め 情報発信を全国へと広げていく

愛知文教女子短期大学では、研究力と研究成果の発信力をレベルアップさせるために補助金を活用している。「これまでは、外部の研究機関が集めたデータを活用して研究を行っていました。補助金が交付されたことで、自学で全国の保育士養成施設や愛知県内の保育園を対象にした独自調査が可能になりました。調査結果を研究に活用し、新たな教育プログラムの開発に役立てるつもりです」(安藤京子副学長)。さらに、教員の研修の機会も増やすことができたと語る。

また、空き教室を改築し、「食物アレルギー教育研究トレーニングルーム」を設置した。調理設備やカメラを設置したこの教室で、アレルギー対応レシピの調理法を収録し、専用ウェブサイトを通じ動画配信する。「研究成果を社会に発信・共有し、食物アレルギーの子どもたちが守られる社会になるよう貢献したい」(同副学長)。



▲食物アレルギー教育研究トレーニングルーム。  
▶収録した調理法の動画をウェブサイト「はっぴーと」で紹介している。

